

# 学生のみなさんへ

京都三大学教養教育研究・推進機構

## はじめに

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の京都三大学は平成26年度より、それぞれの教育理念を基本にしながら京都北山地域の特性を生かして共同することによって、飛躍的に充実した教養教育プログラムを実施することにしました。これは、これまで10年来、3大学が連携して教育や研究を充実・強化するために進めてきた検討を踏まえ、京都府と文部科学省の支援を得て実現することになったものです。

共同化する教養（リベラル・アーツ）教育では、科目群を拡充して選択の幅を広げ、学生のみなさんの多様な関心・学修要求に応えるように工夫しています。学生のみなさんには、様々な角度から総合的に物事を観察し的確に判断できる力や人としての豊かな感性を培うよう求めます。また、共同化によって専門や将来の志望の異なる学生同士や教員との交流を図ることができる条件を勉学や学生生活に活かし、下鴨・北山地域における新しい学生のライフスタイル、大学像が構築されることを期待しています。

### I. 目指すもの

我が国の大学における教養教育は、戦後新制大学の発足以来一貫して、専門教育と並ぶ不可欠のものとして位置づけられてきました。しかしその在り方、システムや評価は時代によって変化し、社会からの要請や学生の受け止め方によって、ときには充実が求められ、また一方では形骸化を指摘されることもありました。現在の私たちは、経済のグローバル化による産業の空洞化、経済・社会の不透明・不安定化、少子高齢化、災害の巨大化、将来のエネルギー問題など様々な課題に直面し、ときには閉塞感を抱くこともあります。このような今の時代に、社会からは、眼前の利害や身の周りの空気のみで判断・行動するのではなく、主体的に考え行動し、多様な人々と連携・協同する豊かな感受性と高い倫理観を身につけることが求められています。私たちがとりくむ教養教育は、学生の皆さんが、高度な専門知識だけではなく学術の幅広い基礎的素養と科学的に思考する力を修得し、それらを基礎にして、文化や立場を異にする様々な人々と対話し議論する力や、書き、表現する力を育むことを目指します。

このような認識を踏まえ、京都三大学の共同化教養教育においては、第一に、時代が求める教養教育の課題を以下の3点に整理し、各授業科目に反映させます。

#### A. 人文・社会・自然諸分野の学術体系を俯瞰しながらこれらの基礎を幅広く学習し、学術への高い関心を育てること。

現代社会を生きていく市民として、諸科学の基礎的知識を幅広く修得することが求められる。大学受験に偏重した教育等の影響による修得知識の偏りを改善することも望まれる。しかし、限られた時間で修得できる知識は多くない。諸学問体系のそれぞれがもつ特有の視点に接することによって、関心・好奇心を醸成する。

#### B. 世界の人々の多様な生き方を感じ、人としての豊かな感性や倫理観を拡張すること。

世界の多様な地域における人々の生活、歴史の様々な時代における人々の経験や思想など、社会における人の生き方、感じ方に触れ、それらを自己に投影することによって自らの生き方を思考し省察しながら、豊かな人間性と倫理観を培う。歴史、社会、文化、芸術等を通して、人としての価値を考察し形成する。

### C. 日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探究する議論に習熟すること。

日々生起する諸問題の多くは、必ずしも解が単一ではない。立場、経験、志向などの異なる多様な者が解を求め、何が正しく何が真実か、何を指すべきかなどを議論し解決に向かう試みを通して、読み書き等のスキルを研鑽しながら、批判的検討や討論を遂行する力を養い、人とかかわるコミュニケーション力の向上を図る。

第二として、このような基本的な目的に加えて、京都三大学としての特徴を活かした教育を実現します。

1. 共同化科目の各教室では、将来の専門分野が異なる京都三大学の学生が混在して受講することによって、学修歴や志向の違いを越えた多面的な視点による学修や討論を実現します。また、上記課題Cに狙いを合わせた少人数の「リベラルアーツ・ゼミナール」を設けます。
2. 伝統文化、芸術、街づくり、市民生活、地場産業やさらに自然環境など、京都に歴史的に生きている諸財産やその現代における展開をとりあげ、京都という地の特色を諸側面から学びます。そして、この地域のなりの理解を通して、これからの地域・街・生活・文化のあるべき姿を検討します。

## II. 実施の方針

京都三大学の共同化教養教育を運営していく組織として「京都三大学教養教育研究・推進機構」が設置されています。本機構のもとで、3大学それぞれから共同化に相応しい授業科目が提供され、また機構独自で工夫された特色ある科目が提供されます。これらの科目はすべて3大学の正規の授業科目として学生の自主的な選択に供されます。

提供される授業科目は、それぞれ上記の目的に沿って、**A. 幅広い基礎的知識の修得**、**B. 多様な人間世界の事象に触れ人々の生き方を感じし思考する**、**C. 真理と正義に係る多面的な議論や論考に習熟する**、の3つの性格があり、各授業が主としてどの性格をもつものかを示して、学生のみなさんの履修に供されます。みなさんには人文・社会・自然の3分野と共に、これらの性格で分けられた科目をバランスよく履修することが望まれます。そこではまた、これまでの学修歴による修得知識の偏りや狭さを改善することも期待されます。

教養教育のカリキュラム、授業のテーマ、内容や方法は固定的なものではなく、学修状況や授業の成果、みなさんからの要望等によって、常に改善・開発を図っていくものです。このため「機構」には「リベラルアーツセンター」と「教育IRセンター」の二つのセンターを設置し、カリキュラム等の改善・開発や学修の質評価等に係る調査・検討に取り組みます。これらの検討は、専ら教員の側のみで行うものではなく、みなさんの積極的な参加・協力が望まれます。学生のみなさんと教職員の協働によって、新しい豊かな学修フィールドの形成を図っていきます。